

高山市平和サミットの報告

日 時：平成27年10月30日（金）18：30～20：40

※パネルディスカッション 19：30～20：40

場 所：高山市民文化会館小ホール

パネリスト：広島市長 松井一寛氏、長崎市長 田上富久氏、高山市長 國島芳明

コーディネーター：元NHK高山支局長 中林利数氏

《概 要》

1. そもそも戦争とは何なのか、どんなことが起こるのか？

（広島市長）

- 本質は、人間が人間を殺すということ。
- 原爆は絶対悪と言って良い。これを行ってしまった人類の愚かさを我々はもっと勉強すべき。過去あったことで、あってはならないことを二度と繰り返さないようにすることが願い。
- 戦争を防ぐには、核兵器や戦争のボタンを押すことができる為政者に戦争をしようとする気持ちを起こさせないことが大切。広島、長崎は、被爆の実相をお伝えすることで、為政者を選ぶ人と為政者に、こんな思いを誰にもさせてたくないという被爆者の思いを受け止め、理解してもらいたい。
- 「過ちは繰り返しません」「我々は、原爆は使いません」「平和を崩すことはしません」という思いを実践すると、平和につながる。これを願って行動しつづけることが、人類のあるべき姿だと思う。

（長崎市長）

- 長崎も同じだが、高山は、豊かな文化を財産として引き継いでいる幸せなまち。
- 被爆と戦後70年を迎え、一番大事なものは、記憶をつないでいくこと。これは、伝える人と、伝えられる人の気持ちがしっかりと噛み合わないとは切れてしまうあやういもの。
- この体験を二度と世界の誰にもさせないというのが、被爆者の方の思い。この思いのバトンをしっかりと子どもの世代に引き継いでいかなければならぬ。これを忘れたとき、同じ過ちを犯す可能性が高くなる。
- 体験は共有できないが、核兵器はいらないもの、無くそうという思い、平和への願い、残酷な兵器をなぜ人間が使う必要があるのだろうかという思いは共有できる。
- これからも世代をこえて、核兵器が無くなるまで諦めないという思いで、記憶をつないでいくことが戦争を防ぐことになる。平和への様々な行動を引き起こす力になる。
- 核兵器を無くすという目標を目指すことは、戦争を無くす大事なきっかけになる。核を無くすことができれば、飢餓、差別など、世界共通の問題を解決する人間の自信になる。

(高山市長)

- ・高山でも 3,200 名を超える戦死者、さらにご家族、親せきを含め、つらい思いをひきずってきている方が相当数いらっしゃると思う。こんなつらい出来事は許せない。人が人を殺すということはあってはならない。これを防ぎたい。戦没者に、戦争は二度と繰り返しません、安らかにお眠りくださいと心から言える社会にすることが、生きているものの務め。次世代にこの思いを引き継いでいかなければならない。
- ・どこかの誰かがやってくれるではなく、自分達がつくっていくんだという思いが必要。

2. 市民レベルで、市民の意識は、戦争を起こさせないために何をしているか？

(広島市長)

- ・人生をどう生きようかという思いの中で争いが起こるが、その解決策に人を殺すことを避ける思考を身に着けることが個々人の責任。この思考というのは、国籍、民族、宗教、言語、肌の色、考え方など、それぞれの違いを受容すること。お互いに自分の手で人を殺すことをやめようということを意識する。相手は自分と違うけれども、生きている同じ人間同士。相手が悪い、人間ではないみたいに考える思想をストップしなければならない。これには、話し合うことが大切。
- ・被爆を伝える伝承者を育成し、経験を踏まえた思いを共有している。市内中高生は、この気持ちを皆に伝える、広げる、署名活動をしてもらっている。被爆樹木の苗木も配布している。

(長崎市長)

- ・市民の皆さんは、伝える活動をされている。平和宣言の起草委員会の中で、今年、若い委員が、「若い世代に原爆が悪いと教えないでほしい。何があったのかを教えてほしい。自分達でそれについて考えたいと」おっしゃっていた。他の委員はみんな、うなずいていた。高校生は、高校生平和大使として、ジュネーブの国連に行っている。第1期生の高校生に平和宣言をつくってもらったとき、子ども達は、先生の下書きから全く離れたものをつくってきた。若い世代、子ども達は、考える力、作り出す力がある。これを信頼して、しっかりとあったことを伝えていくことが大切。
- ・長崎でも、朗読が盛ん。紙芝居も使っている。市民の皆さんで、いろんな伝えかた、いろんな場で子ども達に伝えることによって、どこかで子ども達の心にひっかかる。子ども達は、心に種を植えてくれて、ひょっとすると大きな花を咲かせるかもしれない。色んな伝え方を、市民の皆さんと工夫しながら磨いている。

(高山市長)

- ・観光は平和へのパスポート。異文化を理解して共存の意識を持つことが大切。子ども達が外国人観光客に話しかけ、異文化を理解する活動を行っている。また、今年は、戦没者追悼式に、中学生が参加してくれた。悲しい思いを子ども達が実感してもらうと同時に、子ども達の思いを遺族の方にも知ってもらえた。子ども達と一緒に、平和への活動を続けていきたい。

3. 世界に向けての発信の仕方は？

(広島市長)

- 平和について一人一人考えること。市民の思いを受け止めて、世界の為政者に、その思いを伝えていく機会、会議を実現させていく。
- 戦後 70 年間、戦争が無いことに誇りをもって続けていただきたい。これは、諸先輩が、戦後の思いを受け止め、我々に伝えてくれているから。この思いは、憲法前文に書いてある。日本国民は、・・・諸国民との協和による成果と・・・自由のもたらす恵沢を確保し、政府の行為によつて再び戦争の惨禍が起ることのないやうにすることを決意し・・・日本国民は、恒久の平和を念願し、・・・平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。・・・日本国民は、国家の名誉にかけ、全力をあげてこの崇高な理想と目的を達成することを誓ふ。この考え方を引き継いでいくべき。

(長崎市長)

- 国連で、広島と長崎でメッセージを出している。国連では、国の立場で話をするため、国益・軍事バランスの話で進んでいってしまう可能性があるが、核兵器は、人間が核兵器をいるのかいないのかという人間レベルの話だということを伝えに行っている。原子雲の上からの視点ではなく、下で何が起こったのかという視点で核兵器を論じてほしいと言っている。
- 国レベルでうまくいかないときも、姉妹都市などの都市レベル外交を継続していくことが大切。広島と長崎だけでなく、他の都市が一緒になって平和への活動をしていると、これは、広島・長崎だけの問題ではなく、地球全体の話で、過去の話ではなく未来にこらならないようするためのものだと気付いてもらえる。

(高山市長)

- 9月21日を高山市平和の日に制定した。「平和への絆」の鉦を打ち鳴らし、一斉鉦打をしている。世界を平和の鐘で包み込みたい。その役割を高山が果たしたい。小さなことから積み上げ、次の世代で実を結んでくれれば良い。

4. 高山市の平和宣言へのアドバイス、提案は？

(広島市長)

- 平和宣言は、具体的な良い目標。平和の意味をしっかりと考え、憲法をよく見て、自分のものとして考えていただきたい。平和宣言を構成するときに、一度きりしかない自分の人生をどう生き抜くか、自分自身の個人の観点から平和を考える、自分と関わる方との関係で平和を考える、自分達が生活している環境をどんなものにするかという観点から考えるのが良い。

- 高山は素地ができています。多くの外国人がお越しになっている中で、いろいろな立場の人と接点があるので、それを受容するまちをつくる。この中で、人々とのつきあいを考え、自分自身をどうしていくかを考える、宣言後の日々の行動を提起できるものを考える。
- 皆の意見を取り込んで、自分達の手で、自分達の宣言をつくれたなと思えるものをつくっていただきたい。 高山発の核兵器廃絶にむけたうねりになると思う。

(長崎市長)

- 宮中学校の宣言文は素晴らしかった。
- 千のまちに千の表情の宣言が有って良い。
- 私たちの町の宣言はこんなかたちの宣言が良いと思うものにしていただきたい。
- 長崎で、戦後、「ピース・フロム・アワー・ナガサキ」という言葉が生まれた。今は、「ピース・フロム・ナガサキ」となっている。平和は長崎からという思いだけでなく、みんなが力をあわせて平和をつくる、長崎が平和なまちになりましょうという思いが含まれていると思っている。「ナガサキ」を変えると、世界中のどのまちにもつかえる。私たちが、このまちから平和をつくるという思いで、平和宣言をつくっていただきたい。
- 高山市民は、私たちはこんな思いなんですという平和宣言にしていれば、高山らしい良い平和宣言ができると思います。

(高山市長)

- 私たちの願いを文章にするだけでなく、我々は何をするのかという意識を持って、行動に移していきたい。この一つの規範が平和宣言となる。

《第2回検討会議における質問への回答》

※パネルディスカッション中の各市長からのご発言の中で、質問への回答がほぼ得られたこと及び時間の制約から、直接の質問はなされなかった。以下は、各市長の発言から、質問への回答としてあてはまる部分を抜粋したもの。

質問1

広島でも、若い世代への語り継ぎが減っており、平和への意識が薄れているというデータを受け、広島市は独自の平和教材を作成していることを新聞記事で知った。次世代に伝えることを、平和都市として、行政としてどのように考え、取り組まれているのか？次世代へ語り継ぐという観点で、長崎にもお伺いしたい。

(広島市長)

- ・被爆を伝える伝承者を育成し、経験を踏まえた思いを共有している。市内中高生は、この気持ちを皆に伝える、広げる、署名活動をしてもらっている。被爆樹木の苗木も配布している。

(長崎市長)

- ・被爆と戦後70年を迎え、一番大事なのは、記憶をつないでいくこと。これは、伝える人と、伝えられる人の気持ちがしっかりとかみあわないときれてしまうあやういもの。
- ・この体験を二度と世界の誰にもさせないというのが、被爆者の方の思い。この思いのバトンをしっかりと子どもの世代に引き継いでいかなければならない。これを忘れたとき、同じ過ちを犯す可能性が高くなる。
- ・これからも世代をこえて、核兵器が無くなるまで諦めないという思いで、記憶をつないでいくことが戦争を防ぐことになる。平和への様々な行動を引き起こす力になる。
- ・若い世代、子ども達は、考える力、作り出す力がある。これを信頼して、しっかりとあったことを伝えていくことが大切。
- ・市民の皆さんで、いろんな伝えかた、いろんな場で子ども達に伝えることによって、どこかで子ども達の心にひっかかる。子ども達は、心に種を植えてくれて、ひょっとすると大きな花を咲かせるかもしれない。

質問2

高山市の全体的な平和への取り組みの中で、平和宣言の高山市の位置づけを教えてください。

(高山市長)

- ・私たちの願いを文書にするだけでなく、我々は何をするのかという意識を持って、行動に移していきたい。この一つの規範が平和宣言となる。

質問3

核兵器廃絶以外の平和への取り組みは、どのようなことが考えられるか。

(長崎市長)

- ・被爆と戦後70年を迎え、一番大事なのは、記憶をつないでいくこと。
- ・核兵器を無くすという目標を目指すことは、戦争を無くす大事なきっかけになる。核を無くすことができれば、飢餓、差別など、世界共通の問題を解決する人間の自信になる。
- ・姉妹都市などの都市レベル外交を継続していくことが大切

(広島市長)

- ・国籍、民族、宗教、言語、肌の色、考え方など、それぞれの違いを受容すること。

質問4

広島市長、長崎市長に、平和について、どのような思いで市政を担われているのか伺いたい。

(広島市長)

- ・原爆は絶対悪と言ってよい。これを行ってしまった人類の愚かさを我々はもっと勉強しなければならぬ。過去あったことで、あってはならないことを、二度と繰り返さないようにすることが願い。
- ・「過ちは繰り返さない」「我々は、原爆は使いません」「平和を崩すことはしません」という思いを実践すると、平和につながる。これを願って行動しつづけることが、人類のあるべき姿だと思う。

(長崎市長)

- ・被爆と戦後70年を迎え、一番大事なのは、記憶をつないでいくこと。
- ・核兵器を無くすという目標を目指すことは、戦争をなくす大事なきっかけになる。核を無くすことができれば、飢餓、差別など、世界共通の問題を解決する人間の自信になる。

質問5

高山市長に、観光都市として、平和への取り組みをどう進めていくのか、伺いたい。

(高山市長)

- ・観光は平和へのパスポート。異文化を理解して共存の意識を持つことが大切。子ども達が外国人観光客に話しかけ、異文化を理解する活動を行っている。また、今年は、戦没者追悼式に、中学生が参加してくれた。悲しい思いを子ども達が実感してもらおうと同時に、子ども達の思いを遺族の方にも知ってもらえた。子ども達と一緒に、平和への活動を続けていきたい。

質問6

広島市、長崎市長さんに、平和を築くために市民一人一人がどう生きていくことが大切だと思われているのか伺いたい。

(広島市長)

- 平和について一人一人考えること。
- 広島、長崎は、被爆の実相をお伝えすることで、為政者を選ぶ人と為政者に、こんな思いを誰にもさせてたくないという被爆者の思いを受け止め、理解してもらいたい。
- 「過ちは繰り返しません」「我々は、原爆は使いません」「平和を崩すことはしません」という思いを実践すると、平和につながる。これを願って行動しつづけることが、人類のあるべき姿だと思う。
- 人生をどう生きようかという思いの中で争いが起こるが、その解決策に人を殺すことを避ける思考を身に着けることが個々人の責任。

(長崎市長)

- 被爆と戦後 70 年を迎え、一番大事なものは、記憶をつないでいくこと。
- 私たちが、このまちから平和をつくると思い